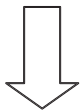


「保育支援」と「研究支援」



指導的な立場となる優れた女性医学研究者の育成

東京女子医科大学女性医学研究者支援室

保育とワークシェアによる 女性医学研究者支援

学生数：医学部 608、看護学部 353

教員数：男性 1,054、女性 689

沿革：1900年 東京女医学校創立

1950年 東京女子医科大学医学部開設



東京女子医科大学女性医学研究者支援室からのメッセージ

女性医学研究者支援の目的

指導的な立場となる優れた女性医学研究者の育成を目標として、日本の医学研究を支え、リーダーシップを取れる女性医学研究者の育成のモデルを形作ることを念頭におき、子育てをしつつ医学研究を遂行する女性医師の育成を実施する。

具体的には・・・

女性医師のキャリア形成において、必要なことは1) 子育て支援、2) 勤務環境の改善、3) 生涯教育・再教育の支援が挙げられる。本事業では、平成18年7月に「女性医学研究者支援室」を設置し、「保育支援」「研究支援」のシステムを構築した。本学に既存の院内保育室に「病児保育」を導入した。「ワークシェア」、「フレックス制」、研究費の支給によって、子育て中の女性医師に研究の推進、学会発表、論文発表の機会を与え、育児との両立によって研究の遂行を可能とするシステムを構築している。先輩女性医師や心理職によって構成される「サポート委員」が子育て中の女性医学研究者の相談に乗り、カウンセリングを行うシステムを作成した。「研究成果発表会」「女性医師支援交流会」によって、女性医学研究者同士が切磋琢磨し意見交換ができる場を構成した。



総括責任者名：宮崎 俊一

実施責任者名：斎藤 加代子

推進室等の名称・連絡先：女性医学研究者支援室

Tel:03-3353-8111 / e-mail:office@scfms.twmu.ac.jp

文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業 保育とワークシェアによる女性医学研究者支援

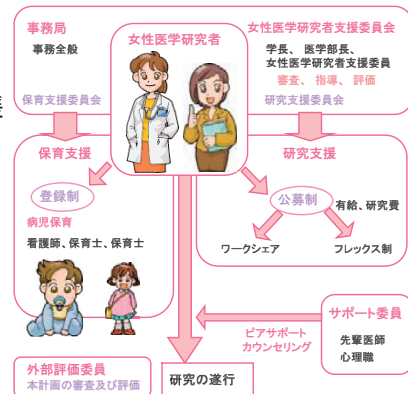
東京女子医科大学女性医学研究者支援室
斎藤加代子、宮崎俊一



■概要

本学は女性医師の育成を理念として設立され100年余の歴史を有する。しかし、女性医師が子育てのために医学を断念することは多いのが現状である。この背景のもと、「保育支援」「研究支援」を行い、指導的立場となる優れた女性医学研究者を育成し、子育てと医学研究の両立を支援する。

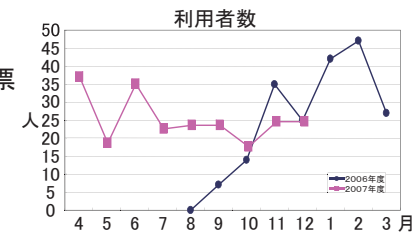
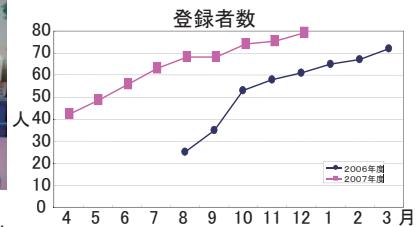
- 本課題の実施および継続によって期待される効果
 - ・女性医師の支援であると共に、子どもの心身の健全な育成の支援
 - ・研究と育児の両立が可能になると共に少子化対策
 - ・全国初の病児保育による大学医学部勤務の女性医師支援モデル
 - ・日本の医学研究を支え、リーダーシップを取れる女性研究者の育成モデル
 - ・指導的な立場となる優れた女性医学研究者の育成
 - ・保育支援によって離職防止、職場復帰が可能
 - ・研究支援によって目標の設定と指導体制の確立
 - ・女性医師が気軽に相談ができる場の形成



【保育支援】

■病児保育室「かとれあ」の実施体制

- スタッフ : 看護師1名、保育士2名
- 利用時間 : 月～金曜日 9:00～17:00
- 定員 : 4名
- 利用料金 : 5,000円/日
- 利用方法
 - ◆登録...事前に登録申込書を提出(登録料無料、年度更新)
 - ◆予約...8:30～17:30は内線で、17:30～20:00は携帯メールで受付
 - ◆受診...利用時に女子医大小児科あるいは掛かりつけ医を受診、指定の診療情報提供書に記載してもらう
 - ◆来室...①診療情報提供書②与薬依頼書③保護者からの病状連絡票④家庭からの病状連絡票を持参



■利用状況

- 登録者数...2006年8月～2007年3月:72名 うち利用者34名
2007年4月～2007年12月:79名 うち利用者46名
- 利用者数...2006年8月～2007年12月:のべ427名

【研究支援】

■勤務形態の多様性

- ワークシェア(2名)
1人が原則1週間に4日を下限、社会保険完備
- フレックス制(3名)
週25時間を下限、非常勤扱い、社会保険なし

◆要領
公募

選考
(書類審査、面接)

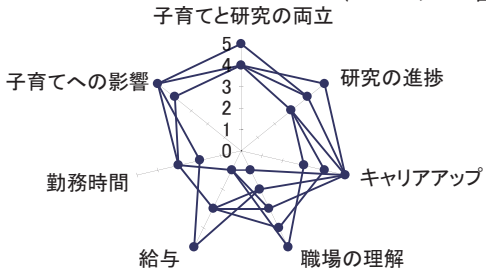
給与・研究用消耗品費を支給

1年ごとに業績を審査、評価



■女性医学研究者からの評価

(n=7 のべ10名)



【カウンセリング】

■実施体制

- スタッフ : 学外の女性カウンセラー
- 相談日 : 毎週金曜日
- 方法 : 面接(電話による予約)またはメール
- 内容 : 仕事や職場、子育ての悩み、家庭の問題など

【女性医師支援交流会】

■第1回 2007年1月20日(土)

- 特別講演
「ママは開きなおって仕事をする」
山田敦子氏(NHKアナウンサー)
- パネル討論
「子育てをしつつ医学研究を遂行する
女性医学研究者の育成のために」



■第2回 2007年10月20日(土)

- 招待講演
「女性研究者が働きやすい社会に」
遠山嘉一氏(日本女子大学)
- シンポジウム
「女性医師のキャリア形成と
ワークライフバランスの実現のために」
- 特別講演
「働きやすい病院を目指して
—女性医師支援を中心として—」
清野佳紀氏(大阪厚生年金病院)

